

住宅内の事故を防止しましょう

安全と思われている家庭の中には、気が付きにくい危険が潜んでいます。死亡事故で多いのが、交通事故ですが、『家庭内の不慮の事故』で亡くなる人も非常に多く、被害者の大半は高齢者と子どもです。

高齢者の不慮の事故

『高齢者の不慮の事故』による死亡原因の一つに転倒・転落があります。家庭内での「つまずき」、「転倒」などの些細な事故が、死亡にいたらなくても、高齢者の場合は、骨折や寝たきりなど症状が重くなりがちです。

転倒しやすい場所・予防

居室などでの、つまずきによる転倒は、敷居や少しの段差など、気が付きにくい所や平らな場所での事故が多く起きています。『玄関の段差』、『カーペットの端』、『布団の縁』など、普段は無意識にしている小さな段差は大きな段差よりも危険です。

- 床などの段差は極力なくしましょう。
- 浴室内の転倒は大きなけがにつながることがあります。入浴だけでなく、浴室掃除の時も転倒の危険があります。滑らないように対策をしましょう。

子どもの不慮の事故

『子どもの不慮の事故』は、子どもの死因の第一位です。○歳児の不慮の事故死の多くは窒息で、一〜四歳児では交通事故、窒息、溺死、火災などが多くなっています。

子どもの発達と事故の関係

子どもの事故は、発達と深い関係があります。

- 何でも口に入れる頃は、窒息や誤飲事故が多くなる。
- 寝返りができる頃は、ベッドなどからの転落事故が多くなる。
- つかまり立ちができる頃は、よく転倒するので、その際テーブルなどにぶつかってけがをしてしまう。

- 何気なく置いてあるビニール袋や新聞・広告なども大変危険です。
- 玄関や浴室、脱衣所などに手すりを付けるのも転倒防止の一つです。

- 一人で歩けるようになると、行動範囲が広がり交通事故が多くなる。
- このような事故を防止するために、保護者が子どもの発達を正しく理



子どもの目線で家中確認

子どもの事故は、思わぬところで起きます。家の中にも危険が多くあります。子どもの目線で台所、洗面所、トイレ、浴室など家中を確認しましょう。

解することが大切です。今後の発達に伴って増加する事故を理解し、家族全員で未然に防ぎましょう。

窒息事故予防

身の回りの小物類に注意しましょう。
 ・頭が持ち上がらない時期は、柔らかい布団や枕、ぬいぐるみなど危険な場合があります。

- ・ビニール袋や紙袋を赤ちゃんの手の届くところに置くのはやめましょう。
- ・幼児の手が届く床から一メートル未満の場所に、三〜四センチ未満の小物類を置かないようにしましょう。
- ・歩きながら、寝ながらなどの「ながら飲食」を、させないようにしましょう。
- ・アメ玉や氷などを口に入れたまま、寝転ぶと何かの拍子に、のどに詰まってしまう恐れがあります。

誤飲の予防

- なんでも口に入れる時期は特に注意が必要です。
- ・タバコ、医療品、洗剤などは手の届かないところに置きましょう。
 - ・食べ物と一緒に、食べ物以外の物を置かないようにしましょう。

浴室での溺水事故予防

- 『浴槽』での事故が一〜二歳の幼児に非常に多くなっています。
- ・つかまり立ちができるようになったら、浴室は危険な場所です。
 - ・災害の備えや、節水のために浴槽に

水をためている場合は、子どもが簡単に浴室に入れないように柵や鍵などをするようにしましょう。

- ・子ども一人での入浴や、子ども同士の入浴もさせないようにしましょう。
- ・入浴中は、子どもから離れない、目を離さないようにしましょう。洗髪中などの少しの時間でも目を離すのは危険です。
- ・浴槽の底が滑りやすくなるように工夫をしましょう。

『集まれ ちびっ子!』

『救急フェア』

『九月九日』は救急の日

日時 九月十一日(日)十一時〜十五時
 場所 そうてつローゼン葉山店 一階
 駐車場 (一色九八八一)

救急医療と救急業務に対して、正しい理解と認識を深めていただくため、九月九日を『救急の日』とし、この日



▲消防車や救急車のペーパークラフト

を含む一週間を『救急医療週間』としています。救急医療週間中の救急業務普及啓発運動の一環として、『子供を家庭の事故から守りましょう』をスローガンに、『集まれ ちびっ子!救急フェア』を開催します。

- ◆消防車、救急車の展示・開放
- ◆ちびっ子救急隊服、レスキュー隊服、消防隊服の試着及び写真撮影
- ◆消防車・救急車ペーパークラフトの配布
- ◆パネル展示『子供を家庭の事故から守りましょう』
- ◆ミニ救急講習

『応急手当』を身に付けませんか

救急車が要請を受けてから、到着する時間の全国平均は約六分かつています。救急車が到着するまでの間に、『救命手当』を行うことが、非常に重要です。近くにいる人が応急手当をすることができれば、尊い人命を救うこ



▲心臓マッサージをします

とができます。

消防本部では、意識が無い場合や、呼吸や心臓が止まってしまった場合に行う救命手当を中心とした『救命講習』を行っています。講習を受けてかけがえのない命を救いましょう。救命講習などの応急手当については、問い合わせください。

消防車に『AED』を積載しました



▲このように胸に貼ります

消防本部の二台の救急車には、それぞれAED(自動体外式除細動器)を積載していますが、八月から消防車にもAEDを積載しています。

救急の現場には、状況により消防車が先に到着する場合があります。

救急車が到着するまでの間、心臓や呼吸が止まっている人に、消防隊がAEDを使用して救命処置を行なうことで、さらなる救命の効果が期待されます。

問合せ 消防本部

八七六一〇一一九 ☎内線二二二